

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承	
			施策の小項目名	—	
主な取組	しまくとぅば普及センター(中核的機能)の設置・運営			実施計画記載頁	47
対応する主な課題	①沖縄各地域で世代を越えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にあるため、保存・普及・継承に一層取り組む必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
各地域のしまくとぅばの普及継承を一層促進させるため、普及に取り組む関係機関や団体と連携を図りながら、普及の中核的機能を果たすため、しまくとぅば普及センターを設置・運営する。						
実施主体	県	しまくとぅば普及の中核的機能を担う普及センターの設置・運営				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】					

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
予算事業名	しまくとぅば普及継承事業						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H29年度: しまくとぅば普及センターの開設(H29.9.12)及び運営	
一括交付金(ソフト)	委託	17,610	25,857	24,075	87,978	139,878	84,932	一括交付金(ソフト)	○H30年度: しまくとぅば普及センターの運営	
予算事業名	—						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H29年度:	
									○H30年度:	

様式1(主な取組)

活動指標名	しまくとぅば普及の中核的機能を担う普及センターの設置・運営				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
実績値	—	—	—	—	設置・運営	—	100.0%	139,878	順調	<p>活動概要</p> <p>沖縄県文化協会への委託により、平成29年9月12日に「しまくとぅば普及センター」を設置し、センター長を含め職員6名を配置した。同センターにおいて各地域における人材の養成や活用のコーディネートその他、地域の会話集の作成、県民からの相談対応等の業務を実施した。</p>
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			<p>進捗状況の判定根拠と取組の効果</p> <p>「しまくとぅば普及センター」の開設に伴い、同センターが普及の総合窓口として機能したことにより、県民がしまくとぅばを学べる環境整備が促進された。</p> <p>同センターの運営により、人材養成講座を24地域で開催、出前講座も6回開催するとともに、地域(中南部・宮古・八重山)の会話集作成も行った。</p>
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
—						—				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・「しまくとぅば普及センター」の専任職員数が不足しているため、全県的な対応が十分でない。

○外部環境の変化

・「しまくとぅば普及センター」について、県民への周知がまだ十分ではない。
・地域によって、しまくとぅば普及への取組意欲の差異が大きい。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・「しまくとぅば普及センター」の専任職員を増やすとともに、普及センターの広報を強化する必要がある。
・普及センター職員の積極的なアプローチやサポートにより、取り組みが弱い地域に対して「同センター」の活用を促す必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・「しまくとぅば普及センター」運營業務に従事する職員(6名→8名)を増員する。
・各関係機関とも連携を図り、「しまくとぅば普及センター」についての広報活動を強化する。
・各市町村、地域文化協会等との連携により、取り組みの弱い地域(北部、八重山地域)に対して、人材養成講座や出前講座の開催を促す。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	施策	① しまくとぅばの保存・普及・継承	
			施策の小項目名	—	
主な取組	人材養成講座・出前講座の開催			実施計画記載頁	47
対応する主な課題	① 沖縄各地域で世代を越えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にあるため、保存・普及・継承に一層取り組む必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画					
		29	30	31	32	33	
しまくとぅばの普及継承を一層促進させるため、しまくとぅば普及の中核的機能を担う「しまくとぅば普及センター」において、各地域における人材養成講座及び学校等への出前講座を実施する。		20地域で開催					>
		しまくとぅば普及の核となる人材の養成講座を各地域で実施					
実施主体	県	講座開催件数 10件					>
		各地域の学校、幼稚園、保育所、民間企業等に対して、出前講座を実施					
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課		【098-866-2768】				



2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位:千円)			
予算事業名	しまくとぅば普及継承事業						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ソフト)	委託	17,610	25,857	24,075	87,978	139,878	84,932	一括交付金(ソフト)	○H29年度:養成講座24地域実施 出前講座6件実施	
									○H30年度:養成講座20地域実施 出前講座10件実施	

様式1(主な取組)

予算事業名												
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画			
							当初予算額	主な財源	○H29年度:			
									○H30年度:			
活動指標名	人材養成講座の実施				H29年度			H29年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				139,878	概ね順調
	—	—	10地域	9地域	24地域	20地域	100.0%					
活動指標名	出前講座の実施				H29年度			H29年度 決算見込 額合計	進捗状況	進捗状況の判定根拠と取組の効果		
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
	—	—	—	—	6件	10件	60.0%					
活動指標名	—				H29年度			H29年度 決算見込 額合計	進捗状況			
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
(2)これまでの改善案の反映状況												
平成29年度の取組改善案							反映状況					
—							—					

様式1(主な取組)



3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・「しまくとぅば普及センター」の専任職員数が不足しているため、全県的な対応が十分でない。

○外部環境の変化

・「しまくとぅば普及センター」について、県民への周知がまだ十分ではない。
・地域によって、しまくとぅば普及への取組意欲の差異が大きい。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・「しまくとぅば普及センター」の専任職員を増やすとともに、普及センターの広報を強化する必要がある。
・普及センター職員の積極的なアプローチやサポートにより、取組みが弱い地域に対して「同センター」の活用を促す必要がある。



4 取組の改善案(Action)

・「しまくとぅば普及センター」運營業務に従事する職員(6名→8名)を増加する。
・各関係機関とも連携を図り、「しまくとぅば普及センター」についての広報活動を強化する。
・各市町村、地域文化協会等との連携により、取組みの弱い地域(北部、八重山地域)に対して、人材養成講座や出前講座の開催を促す。

様式1(主な取組)

活動指標名	普及団体や民間企業等が実施する普及活動に対する補助				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要	
	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
実績値	—	—	—	9件	12件	10件	100.0%	139,878	順調	しまくとぅば普及継承の取組に対する補助事業の公募を行ったところ、22件の応募があり、厳正な審査の結果、12件の採択を行った。採択されたNPO等の民間団体においてしまくとぅばの創作劇、幼稚園等での読み聞かせ、普及ツールの製作などが実施された。	
活動指標名	—				H29年度						
実績値										進捗状況の判定根拠と取組の効果	計画値を上回る12件の補助事業を採択し、しまくとぅば創作劇や幼稚園での読み聞かせ等の実施など、様々な取組を実施したことにより、県民が「しまくとぅば」に触れる環境の醸成に務めた。
活動指標名	—				H29年度						
実績値											
(2)これまでの改善案の反映状況											
平成29年度の取組改善案						反映状況					
—						—					



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・普及団体がこれまでに補助事業に関わったことのない団体等が多く、事務作業そのものについても不慣れな団体がほとんどであることから、補助事業の制度そのものの理解が難しく、事業の執行に多大な支援を要する。

○外部環境の変化

・周知広報が十分でないため、応募する団体や地域に偏りがある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・各団体が補助事業を正しく執行できるようサポートする必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・補助事業の公募及び実績報告提出の時期に、適切な予算執行や精算の仕方について理解できるよう説明会を開催する。
- ・県及びマスコミの広報媒体等を積極的に活用し、補助事業の周知広報を強化する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	施策	② 伝統行事の伝承・復元	
			施策の小項目名	—	
主な取組	地域文化継承支援事業			実施計画記載頁	48
対応する主な課題	②各地域、各島々に伝わる祭事等の伝統行事をはじめ、琉球料理等の伝統的な生活文化が徐々に失われつつあり、沖縄文化が体感できる環境は徐々に薄れてきている。特に、離島や過疎地域においては、人口の減少に伴い祭りの簡素化や後継者不足などが課題となっている。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画					
		29	30	31	32	33	
普段、祭事等でしか披露されていない地域の伝統芸能等を国立劇場おきなわに集め、舞台公演として県民へ披露する「特選 沖縄の伝統芸能」を開催するとともに、各地域の伝統行事・芸能等をテーマに文化講演(シンポジウム等)を開催する。		3回以上シンポジウム開催					>
		各地域でのシンポジウム等の開催					
実施主体	県、文化協会	1回以上公演回数				>	
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課	【098-866-2768】	地域の伝統芸能を集めた公演				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名 地域文化継承支援事業							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H29年度: シンポジウム等の開催3件、舞台公演の開催1回	
県単等	委託	—	—	7,248	8,748	9,408	—		○H30年度:	

予算事業名 地域の文化継承・発信支援事業(後継事業)							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H29年度:	
県単等	委託	—	—	—	—	—	9,550	県単等	○H30年度: シンポジウム等の開催3件、舞台公演の開催1回	

様式1(主な取組)

活動指標名	各地域でのシンポジウム等の開催				H29年度			H29年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		—	—	—	—	3回	3回	100.0%	9,408	順調
活動指標名	地域の伝統芸能を集めた公演				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	1回	1回	100.0%	<p>進捗状況の判定根拠と取組の効果</p> <p>県内3地域(与那原町、金武町、那覇市)でその地域の伝統行事や伝統芸能をテーマに文化公演(シンポジウム)を開催し、地域の伝統行事の発信及び活性化を図った。 また、県内各地域で披露されている伝統芸能、伝統行事を国立劇場おきなわで披露する公演を行い、他地域との比較や交流を行うことで、自らの地域の伝統芸能等の重要性の再認識が図られた。</p>		
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度 of 取組改善案						反映状況				
<p>①引き続き各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を開催する。</p> <p>②各地にそれぞれ共通して伝わる伝統芸能のうちの一つをテーマに取り上げ、複数の地域を招いて、その比較・検証をとおして、自身の地域の伝統文化を見つめ直すことのできる文化講演会を開催する。</p>						<p>①各地でのシンポジウムを3回開催した。地元で伝統芸能の保存継承に携わっている方をメインにパネリストを構成した他、各地域の伝統芸能のデモンストレーションも含めたプログラムとしたことから、地域住民が活発に意見を交わす姿が見られた。</p> <p>②シンポジウム及び公演会の開催により、地域の伝統文化を保存継承や今後の文化関連団体のネットワークを強化していくべきであるという共通認識が図られた。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・地域文化継承に関して、文化関連団体間の横の連携が取れていない。各地の取組について情報交換できるような場がない。

○外部環境の変化

・各地域の住民が、自らの地域の伝統行事・伝統芸能の重要性や価値を共有できていない。
・娯楽の多様化に伴い、自らの地域の伝統行事・伝統芸能への関心が薄れている。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムを開催する必要がある。

・地域文化の普及継承に携わる各団体の連携を強化するため、情報交換の場を提供し、今後の地域文化の普及継承に対する機運醸成を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・引き続き各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を開催する。

・各地にそれぞれ共通して伝わる伝統芸能のうちの一つをテーマに取り上げ、複数の地域を招いて、その比較・検証をととして、自身の地域の伝統文化を見つめ直すことのできる文化講演会を開催する。

様式1(主な取組)

活動指標名	動画コンテンツの制作				H29年度			H29年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	6話	5話	100.0%	6,463	順調	無形遺産のひとつである伝承話の記録を保存・継承・活用するため、平成28年度に選定した優良民話80話の中から6話の動画コンテンツを制作した。
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度 of 取組改善案						反映状況				
<p>①動画作成選定・作成にあたり、時代考査や当時の文化等について現地調査を行う。</p> <p>②誰もが楽しみながら民話に触れられるよう民話の内容や地域から6話をバランス良く選出し、方言と共通語の両方を選べる動画を作成する。</p>						<p>①話者の家族や親族に対し直接聞き取りによる現地調査を行った。また、時代考査や文化については民俗学の専門家の協力を得ながらイラストに反映させた。</p> <p>②地域毎の言語・文化の特色の研究・理解促進のため、国頭村、読谷村、那覇市、糸満市、宮古島市、石垣市の6地域から1話ずつ選び、原話(話者の方言)と再話(方言と共通語)、及び言語記号での表記を行った。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・デジタルミュージアム開設は平成31年度を予定しているため、それ以前の間はオンライン以外の方法による動画の発信を効果的に行う必要がある。
- ・30年以上前に採取された音声であること、言語学的に精通した専門家に一字一句監修してもらう必要があることから、原話の文字おこし・翻訳に想定以上に時間を要しており作業の進捗管理を慎重に行う。

○外部環境の変化

- ・地域の伝承者が失われつつあることから、引き続き内容調査を早急に行う必要がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・専門家の監修の下、伝承話の文字おこし・動画制作を進め、博物館の教育普及活動(移動展や学芸員講座)を活用し、事業成果を発信する必要がある。
- ・動画を視聴した者からアンケートにより意見を聴取し、今後の活動に反映させる必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・制作した動画コンテンツについて、博物館の移動展及び学芸員講座で上映会を行い、離島の児童や一般県民が伝承話に触れる機会を創出する。
- ・また、動画コンテンツを視聴した方にアンケートを実施し、民話や方言に対する関心や動画についての感想をふまえ、より効果的な発信につなげる。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	施策	② 伝統行事の伝承・復元	
			施策の小項目名	—	
主な取組	沖縄食文化の保存・普及・継承			実施計画記載頁	48
対応する主な課題	②各地域、各島々に伝わる祭事等の伝統行事をはじめ、琉球料理等の伝統的な生活文化が徐々に失われつつあり、沖縄文化が体感できる環境は徐々に薄れてきている。特に、離島や過疎地域においては、人口の減少に伴い祭りの簡素化や後継者不足などが課題となっている。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
文化や歴史に培われてきた沖縄特有の食文化を保存・継承するとともに、伝統的な食文化を活用して沖縄文化の魅力を県内外に発信するための調査・検討を行い、食文化のあるべき姿、進むべき方向性を明確にする。		人材養成 毎年度5名				→
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課		【098-866-2768】			伝統食文化の普及推進計画に基づく取組の実施

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
予算事業名	沖縄食文化保存・普及・継承事業						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源		
県単等	委託	—	—	—	9,142	8,724	18,402	県単等	○H29年度: 伝統的な食文化の担い手を育成するため育成講座を開催したほか、伝統的な食文化を情報発信するためのガイドブックの作成等を行った。 ○H30年度: 担い手育成講座の実施と担い手の活用を行うとともに、伝統的な食文化のブランディングに取り組み、ホームページの開設等により情報の発信を行う。	
予算事業名	沖縄食文化の魅力味わい事業						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源		
県単等	委託	—	—	8,449	—	—	0		○H29年度: — ○H30年度: —	

様式1(主な取組)

活動指標名	普及推進計画に基づく人材養成				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	22名	5名	100.0%	8,724	順調	「沖縄の伝統的な食文化の普及推進計画」に基づき、沖縄の伝統的な食文化の担い手を育成するため、担い手育成講座を開催したほか、伝統的な食文化を情報発信するためのガイドブックの作成等を行った。
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	—				H29年度			8,724	順調	進捗状況の判定根拠と取組の効果 沖縄の伝統的な食文化の普及啓発活動を行う担い手を育成するため、食文化に関する講義と琉球料理の調理実習からなる担い手育成講座を開催し、22名の講座修了者を「琉球料理传承人」として認証した。
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>①伝統的な食文化を継承している人材の高齢化などから、早急な担い手の育成が求められているため、人材育成に係るカリキュラム策定や人材育成方針などを検討する。</p> <p>②伝統的な食文化を保存、普及、継承するため県民にその価値を再認識してもらうため、伝統的な食文化に関する情報収集及び情報発信の手法を検討する。</p>						<p>①沖縄の伝統的な食文化の担い手を育成するため、食文化に関する講義と琉球料理の調理実習からなるカリキュラムを作成し、担い手育成講座を開催した。講座修了者は「琉球料理传承人」として認証し、普及啓発活動に取り組んでいる。</p> <p>②沖縄の伝統的な食文化について県民にその価値を再認識してもらうため、沖縄食文化実態調査による情報収集と、ガイドブックや文化振興課ホームページによる情報発信を行った。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・県民が伝統的な食文化の価値を再認識するとともに観光資源として活用するために、分かりやすく効果的な方法が求められている。

○外部環境の変化

・沖縄の伝統的な食文化を継承する人材の高齢化やライフスタイルの変化などから、伝統的な食文化の保存・普及・継承が危ぶまれており、早急な取組が求められている。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・沖縄の伝統的な食文化のブランディングに取り組むとともに、効果的な情報発信の方法について検討する必要がある。
- ・沖縄の伝統的な食文化の担い手を育成するとともに、育成した人材の活用について検討する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・沖縄の伝統的な食文化のブランディングに取り組むとともに、効果的な情報発信の方法について検討する。
- ・沖縄の伝統的な食文化の担い手を育成するとともに、育成した人材の活用について検討する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	施策	③ 文化財の適切な保存	
			施策の小項目名	○埋蔵文化財の発掘調査、戦災文化財の復元、在外文化財の調査・返還	
主な取組	沖縄遺産のブランド開発・発信事業			実施計画記載頁	49
対応する主な課題	③「琉球王国のグスク及び関連遺産群」をはじめ、沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財を適切に保護し、後世に引き継いでいくことが重要な課題である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
文化財の適切な保存を目的に、県立博物館・美術館による旧石器人遺跡等の埋蔵文化財の発掘調査を実施する。また、出土品・遺跡等の展示・公開をし、観光産業に利活用する。		展覧会実施1回				
		出土品調査、県外巡回展の開催				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】					

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名 沖縄遺産のブランド開発・発信事業							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	委託	20,266	16,373	21,008	25,306	14,070	0		○H29年度: サキタリ洞発掘調査成果の情報発信のため、県外で巡回展及び関連イベントを実施、また詳細な年代測定を行い調査報告書を刊行した。 ○H30年度: —
予算事業名 —							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
									○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	展覧会実施				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	1回	—	1回	1回	1回	1回	100.0%	14,070	順調	県外(大阪府立弥生文化博物館)で巡回展を実施したほか、出土品の化学分析調査を実施し成果報告書を刊行した。
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
①発見された出土品について、平成28年度の火山ガラス比分析に加え、平成29年度は放射性炭素による年代測定を行い、厳密な年代特定を行い、これまでの成果報告書を発行する。 ②県外で巡回展及び関連イベントを開催するとともに、ポスター、パンフレット等広報を充実させ、県外の一般、学術関係者へ発信を行う。						①発見された出土品について放射性炭素による年代測定を行い、昨年度の分析結果と併せて厳密な年代を特定するとともに、これまでの事業成果に関する報告書を刊行した。 ②大阪府弥生文化博物館と連携し、広報活動を行うとともに巡回展及び関連イベントを開催した結果、計11,608人の入場者があった。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・サキタリ洞遺跡では、平成24～29年度の調査研究において、発掘できた面積、深度は限られたものであった(平面規模で洞穴全体面積の8.6%)、また、想定を上回る重要な発見が続いたため、成果の公表までに必要な調査研究に時間を要することから、その内容をより拡充して実施する必要がある。
・平成28年度の特別展、平成29年度の巡回展および関連イベントを通して、県内外の多方面への情報発信を行うことができた。

○外部環境の変化

・事業成果に関する情報発信の結果、JTA機内誌(coral way 2016年3-4月号)や岩波科学(2017年6月号)では、沖縄の旧石器人骨と旧石器時代遺跡に関する特集が掲載されるなど、沖縄遺産としての認知度は高まりつつある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・本事業を通して、沖縄の旧石器人骨と旧石器時代遺跡については、県内外において一定の認知度を得たと考えられることから、当初の目的は達成されたと言える。
・サキタリ洞遺跡の調査研究は未だ初歩的な段階に留まっていることから、発信できる情報も限られており、継続的な調査研究が必要である。
・現在のところ、観光、教育への活用が可能な旧石器時代遺跡は限られており、今後、サキタリ洞遺跡だけでなく、他の遺跡とも連携した活用の取組が求められている。

4 取組の改善案(Action)

・今後は本事業によって得られた成果を基に、情報発信の基礎となる調査研究を継続的に実施し、サキタリ洞遺跡だけでなく、他の遺跡とも連携した旧石器時代人骨と旧石器時代遺跡の調査研究、活用に向けた取組を実施する。

様式1(主な取組)

活動指標名	模造復元品の製作(累計)				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	7件	18件	—	100.0%	182,097	順調	<p>8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、陶芸、金工、三線)の模造復元品の製作を実施し、製作工程及び製作過程で得られた知見の記録を行っており、絵画1件、石彫2件、染織5件、金工2件、三線1件の計11件が完成した。</p>
活動指標名	—				H29年度					
実績値										<p>進捗状況の判定根拠と取組の効果</p> <p>平成27年度に作成した実施設計書を基に、平成28年度から8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、陶芸、金工、三線)にわたる模造復元品の製作を開始し、平成29年度から平成31年度までに58件の復元品を完成させる予定である。平成29年度は11件が完成し順調に製作作業が進んでいる。また、平成29年度の製作工程の記録及び知見をまとめ、次年度に報告会を行う予定である。</p>
活動指標名	—				H29年度					
実績値										
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>①適正な製作を行うため8分野の監修者会議を開催する。また、模造復元資料の製作過程を論文等で発表する。</p> <p>②展示発信に係る県内博物館等施設との検討調整を行う。</p>						<p>①模造復元製作のための監修者会議を8分野ごとに各2回実施した。木彫の模造復元の製作過程について、「沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要第11号」にて論文発表し(「旧円覚寺仁王像復元制作に関する研究」)、また、本事業の報告会を2回(H29年4月、H30年2月)実施した。</p> <p>②当館での取組を、県内離島(八重山、宮古、久米島)、及び九州、関東の県外の施設で紹介するため、展覧会等の発信事業に関する調整を行った。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・復元品の製作が平成31年度までかかるため、事業効果の検証方法を工夫する必要がある。

○外部環境の変化

・復元品の製作は失われた手わざの再現であることから、試作を行いながら、慎重に進めているが、8つの各分野において、素材、技法など新たな課題に対応する必要がある。

・他館での展覧会の実施においては、連携体制について引き続き十分な調整を要する。特に県外で実施する場合は、琉球王国文化に興味を持ってもらうため広報活動に力を入れる必要がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・復元品の製作は、監修者と製作者の情報共有等の連携を強化するとともに、復元品の製作工程管理に万全を期する必要がある。

・事業の発信は、製作工程に合わせて効果的な発信方法を工夫しながら実施する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・質の高い復元を行うため、監修者会議や製作者と綿密に連携しながら、新たな課題に対応しつつ、完成までの工程管理を行う。

・本事業の周知並びに、王国文化の理解、活用の促進のため、これまでの復元作業状況や製作工程で得られた知見等を発表する報告会等を実施する。